

施策の評価シート (令和5年度分)

1 計画における位置付け						
政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	13	誰もが尊重され暮らしやすい社会の実現	管理コード	051339
		施策	39	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進	本冊ページ	91
	関連個別計画					
	担当部局		政策財務部、健康福祉部、都市計画部、建設部			
施策の内容(番号)		122		～	124	

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価	今後の方向性	担当課
		選択区分	選択区分	
122	思いやりや支えあいの心が根付いたやさしい社会を実現するため、市民一人ひとりにとってユニバーサルデザインが特別なものとしてではなく、当たり前のものとして浸透し、定着するよう、地域や学校等におけるユニバーサルデザインの普及・啓発を強化します。	A	①	政策課
123	誰もが安心して快適に暮らすことができるまちの実現に向け、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した施設や公共交通を含む一体的な都市空間づくりを推進するとともに、自由かつ等しく情報やサービスを楽しみ、誰もがまちづくりに参加できる環境整備を進めます。	A	①	政策課
124	地域や市民との協働による連携の強化を図るとともに、積極的に活動を推進する人材の確保・育成に努め、ユニバーサルデザインの輪が広がる取組を進めます。	A	①	政策課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A	津市ユニバーサルデザイン連絡協議会との協働により、UDの普及啓発活動やネットワークの拡大に向けた取組、小中学校等におけるUD講座や市職員に対する研修を実施しており、令和5年度はイベントにおける普及啓発活動が計画を上回ったほか、小中学校等でのUD講座における参加者総数が778人となるなど、ユニバーサルデザインのまちづくりが進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	D	D	A	A				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり			
		基本政策	13	誰もが尊重され暮らしやすい社会の実現		管理コード	051339122
		施策	39	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進		本冊ページ	91
	関連個別計画						
担当部局		政策財務部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		122	思いやりや支えあいの心が根付いたやさしい社会を実現するため、市民一人ひとりにとってユニバーサルデザインが特別なものとしてではなく、当たり前のものとして浸透し、定着するよう、地域や学校等におけるユニバーサルデザインの普及・啓発を強化します。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
122-1	UDネットワーク構築等事業	UDのまちづくりの推進に係る啓発、市内で活動又は活動しようとしている個人若しくは団体のネットワーク化及びネットワークの拡大	効	市民がUDへの理解と認識を深めるとともに、個人若しくは団体との協力体制の構築や新たな人材の発掘につながる	◆ 3回以上のイベント等において啓発を実施	◎	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更に伴い各種イベントがほぼ平常通り開催されるなか、津市UD連絡協議会が香良洲町民体育祭、つ・環境フェスタ、久居まつり及びふれあいのかおりにおいて啓発活動を行った。今後も、市内各所で開催されるイベント等において啓発活動等を行う。
			誰	市民	◇ 啓発のために参加したイベント数(4回)	◎	
	政策課		何	UDのまちづくりの推進に向けた機運の醸成に寄与する	149 (千円)	現状維持	
122-2	UD研修会等講師派遣事業	UDへの理解と認識を深めるための研修会等への講師派遣	効	UD講座受講者がUDについて知り、理解を深めることができる	◆ 令和4年度実績並みのUD講座28件(参加者総数800人程度)に講師を派遣	◎	依然としてコロナ禍以前の水準まで回復しきっていないものの、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更もあり、小中学校等におけるUD講座への講師派遣実績は28件(参加者総数778人)となり、当初の事業実施計画を達成した。今後は、津市UD連絡協議会においてこれまで休会中であつたUDまちづくりの会の復会に伴い講座の開催回数の増加が見込まれることから、引き続き小中学校等からの依頼を受けて講師派遣を行う。
			誰	UD講座受講者(小中学生等)	◇ 派遣回数(28回)参加者総数(800人程度)	○	
	政策課		何	UDの考え方が当たり前のものとして浸透し、定着する	165 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和5年度分)

122-3	UD発表会 開催事業	津市UD連絡協 議会との共同に よるUD講座を受 講した小中学生 等による発表等	効	UD発表会に来場した地域住民 がUDについて知り、理解を深め ることができる	◆	200人以上が来場す るUD発表会を年1回 開催	◎	南郊地区人権フェスティ バル実行委員会の協力を 得て、「第26回南郊地区人 権フェスティバル」のプログ ラムの一部としてUD発表会 を開催し、UD講座を受講し た高茶屋小学校の児童に よる発表や、津市UD連絡 協議会会長からの講話を 行った。(来場者数278人) 今後も、小中学校等の協 力を得てUD発表会を開催 する。
			誰	UD発表会来場者(地域住民)	◇	UD発表会開催回数 (1回) 来場者数(200人以 上)	◎	
	政策課		何	地域でUDの輪が広がるきっかけ となる		0(千円)	現状維持	
122-4	UD研修事 業	津市職員を対象 としたUD研修	効	職員がUDについて知り、理解を 深めることができる	◆	新規採用職員、採用 後2年目職員を対象 に研修を実施	◎	76人の新規採用職員、55 人の2年目職員を対象に研 修を実施し、UDへの理解と 認識の促進を図った。 今後も、新規採用職員及 び採用後2年目職員を対象 に研修を実施する。
			誰	職員	◇	1回以上UD研修を受 講した職員の割合 (100%を維持)	◎	
	政策課		何	UDの考え方を持って業務を遂行 することで、様々な方に寄り添 った行政サービスを提供できる		5(千円)	現状維持	
122-5			効		◆			
			誰		◇			
			何			(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があつたか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・ 事業評価を 根拠とした 「施策の内 容」 の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

4 今後の方向性		
今後の施策の 内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるた め、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成である が、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成では ないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、 抜本的な見直し等が必要	①

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	D	D	A	A				
今後の 方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり			
		基本政策	13	誰もが尊重され暮らしやすい社会の実現		管理コード	051339123
		施策	39	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進		本冊ページ	91
	関連個別計画						
担当部局		政策財務部、健康福祉部、都市計画部、建設部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		123	誰もが安心して快適に暮らすことができるまちの実現に向け、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した施設や公共交通を含む一体的な都市空間づくりを推進するとともに、自由かつ等しく情報やサービスを楽しみ、誰もがまちづくりに参加できる環境整備を進めます。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
123-1	UDネットワーク構築等事業	UDのまちづくりの推進に係る啓発、市内で活動又は活動しようとしている個人若しくは団体のネットワーク化及びネットワークの拡大	効	市民がUDへの理解と認識を深めるとともに、個人若しくは団体との協力体制の構築や新たな人材の発掘につながる	◆ 3回以上のイベント等において啓発を実施	◎	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更に伴い各種イベントがほぼ平常通り開催されるなか、津市UD連絡協議会が香良洲町民体育祭、つ・環境フェスタ、久居まつり及びふれあいのかおりにおいて啓発活動を行った。今後も、市内各所で開催されるイベント等において啓発活動等を行う。
			誰	市民	◇ 啓発のために参加したイベント数(4回)	◎	
	政策課		何	UDのまちづくりの推進に向けた機運の醸成に寄与する	149 (千円)	現状維持	
123-2	UD研修会等講師派遣事業	UDへの理解と認識を深めるための研修会等への講師派遣	効	UD講座受講者がUDについて知り、理解を深めることができる	◆ 令和4年度実績並みのUD講座28件(参加者総数800人程度)に講師を派遣	◎	依然としてコロナ禍以前の水準まで回復しきっていないものの、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更もあり、小中学校等におけるUD講座への講師派遣実績は28件(参加者総数778人)となり、当初の事業実施計画を達成した。今後は、津市UD連絡協議会においてこれまで休会中であつたUDまちづくりの会の復会に伴い講座の開催回数の増加が見込まれることから、引き続き小中学校等からの依頼を受けて講師派遣を行う。
			誰	UD講座受講者(小中学生等)	◇ 派遣回数(28回)参加者総数(800人程度)	○	
	政策課		何	UDの考え方が当たり前のものとして浸透し、定着する	165 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和5年度分)

123-3	UD発表会 開催事業	津市UD連絡協 議会との共同に よるUD講座を受 講した小中学生 等による発表等	効	UD発表会に来場した地域住民 がUDについて知り、理解を深め ることができる	◆	200人以上が来場す るUD発表会を年1回 開催	◎	南郊地区人権フェスティ バル実行委員会の協力を 得て、「第26回南郊地区人 権フェスティバル」のプログ ラムの一部としてUD発表会 を開催し、UD講座を受講し た高茶屋小学校の児童に よる発表や、津市UD連絡 協議会会長からの講話を 行った。(来場者数278人) 今後も、小中学校等の協 力を得てUD発表会を開催 する。
			誰	UD発表会来場者(地域住民)	◇	UD発表会開催回数 (1回) 来場者数(200人以 上)	◎	
	政策課		何	地域でUDの輪が広がるきっかけ となる		0(千円)	現状維持	
123-4	UD研修事 業	津市職員を対象 としたUD研修	効	職員がUDについて知り、理解を 深めることができる	◆	新規採用職員、採用 後2年目職員を対象 に研修を実施	◎	76人の新規採用職員、55 人の2年目職員を対象に研 修を実施し、UDへの理解と 認識の促進を図った。 今後も、新規採用職員及 び採用後2年目職員を対象 に研修を実施する。
			誰	職員	◇	1回以上UD研修を受 講した職員の割合 (100%を維持)	◎	
	政策課		何	UDの考え方を持って業務を遂行 することで、様々な方に寄り添 った行政サービスを提供できる		5(千円)	現状維持	
123-5			効		◆			
			誰		◇			
			何			(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があつたか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・ 事業評価を 根拠とした 「施策の内 容」 の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

4 今後の方向性		
今後の施策の 内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるた め、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成である が、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成では ないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、 抜本的な見直し等が必要	①

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	D	D	A	A				
今後の 方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり			
		基本政策	13	誰もが尊重され暮らしやすい社会の実現		管理コード	051339124
		施策	39	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進		本冊ページ	91
	関連個別計画						
担当部局		政策財務部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		124	地域や市民との協働による連携の強化を図るとともに、積極的に活動を推進する人材の確保・育成に努め、ユニバーサルデザインの輪が広がる取組を進めます。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
124-1	UDネットワーク構築等事業	UDのまちづくりの推進に係る啓発、市内で活動又は活動しようとしている個人若しくは団体のネットワーク化及びネットワークの拡大	効	市民がUDへの理解と認識を深めるとともに、個人若しくは団体との協力体制の構築や新たな人材の発掘につながる	◆ 3回以上のイベント等において啓発を実施	◎	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更に伴い各種イベントがほぼ平常通り開催されるなか、津市UD連絡協議会が香良洲町民体育祭、つ・環境フェスタ、久居まつり及びふれあいのかおりにおいて啓発活動を行った。今後も、市内各所で開催されるイベント等において啓発活動等を行う。
			誰	市民	◇ 啓発のために参加したイベント数(4回)	◎	
	政策課		何	UDのまちづくりの推進に向けた機運の醸成に寄与する	149 (千円)	現状維持	
124-2	UD研修会等講師派遣事業	UDへの理解と認識を深めるための研修会等への講師派遣	効	UD講座受講者がUDについて知り、理解を深めることができる	◆ 令和4年度実績並みのUD講座28件(参加者総数800人程度)に講師を派遣	◎	依然としてコロナ禍以前の水準まで回復しきっていないものの、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更もあり、小中学校等におけるUD講座への講師派遣実績は28件(参加者総数778人)となり、当初の事業実施計画を達成した。今後は、津市UD連絡協議会においてこれまで休会中であつたUDまちづくりの会の復会に伴い講座の開催回数の増加が見込まれることから、引き続き小中学校等からの依頼を受けて講師派遣を行う。
			誰	UD講座受講者(小中学生等)	◇ 派遣回数(28回)参加者総数(800人程度)	○	
	政策課		何	UDの考え方が当たり前のものとして浸透し、定着する	165 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和5年度分)

124-3	UD発表会 開催事業	津市UD連絡協 議会との共同に よるUD講座を受 講した小中学生 等による発表等	効	UD発表会に来場した地域住民 がUDについて知り、理解を深め ることができる	◆	200人以上が来場す るUD発表会を年1回 開催	◎	南郊地区人権フェスティ バル実行委員会の協力を 得て、「第26回南郊地区人 権フェスティバル」のプログ ラムの一部としてUD発表会 を開催し、UD講座を受講し た高茶屋小学校の児童に よる発表や、津市UD連絡 協議会会長からの講話を 行った。(来場者数278人) 今後も、小中学校等の協 力を得てUD発表会を開催 する。
			誰	UD発表会来場者(地域住民)	◇	UD発表会開催回数 (1回) 来場者数(200人以 上)	◎	
	政策課		何	地域でUDの輪が広がるきっかけ となる		0(千円)	現状維持	
124-4	UD研修事 業	津市職員を対象 としたUD研修	効	職員がUDについて知り、理解を 深めることができる	◆	新規採用職員、採用 後2年目職員を対象 に研修を実施	◎	76人の新規採用職員、55 人の2年目職員を対象に研 修を実施し、UDへの理解と 認識の促進を図った。 今後も、新規採用職員及 び採用後2年目職員を対象 に研修を実施する。
			誰	職員	◇	1回以上UD研修を受 講した職員の割合 (100%を維持)	◎	
	政策課		何	UDの考え方を持って業務を遂行 することで、様々な方に寄り添 った行政サービスを提供できる		5(千円)	現状維持	
124-5			効		◆			
			誰		◇			
			何			(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があつたか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・ 事業評価を 根拠とした 「施策の内 容」 の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

4 今後の方向性		
今後の施策の 内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるた め、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成である が、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成では ないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、 抜本的な見直し等が必要	①

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	D	D	A	A				
今後の 方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

